

公共事業チェック議員の会が5月16日のヒアリングで国土交通省に依頼したこと

質問	回答期限	回答
1 代替地安全対策の疑問点		
1-1 代替地安全対策を大幅に後退させた理由		
<p>・代替地安全対策について、どのような調査をし、どのような結果が出て、誰がどのような理由で、いつ変更の決定をしたのか、経緯がわかる行政文書を提出してください。</p>	5/24(金)	<p>ハッ場ダム貯水池周辺の代替地については、技術的な指針等に基づき必要な安全性を確保することとしており、必要に応じて対策工事を実施するとともに、試験湛水により安全性を確認することとしています。 事業進捗の過程で、代替地の土地利用、調査や検討の結果等が明確化していくため、具体的な箇所や工法の変更はあり得ますが、基本的な方針には変わりありません。 「H26ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務」などにより調査を行い、それぞれの箇所の安全性を評価し、ハッ場ダム工事事務所が、上記の基本的な方針に沿って、対策工事の実施に先立ち、実施の要否や工法を決定し、必要に応じて施工しています。</p>
<p>・国土交通省は「技術的な指針等に基づいて行っている」と述べているが、その「技術的な指針等」とは何かを具体的に示してください。</p>	5/24(金)	河川砂防技術基準（案）同解説（設計編Ⅰ）、宅地造成等規制法施行令等
<p>・2016年から2017年にかけての工法の変更について、どのような専門家の了解を得て決定したのか、その専門家の所属、名前を明らかにしてください。</p>	5/24(金)	直轄事業は、国が責任をもって判断し、実施するものなので、必要に応じて専門家の助言を得ることはありますが、了解を得るものではありません。
1-2 現在の代替地対策の事業費		
<p>・代替地対策工事を個別に発注しているわけではないということなので、次の2点の資料を提出してください。</p>	5/24(金)	
<p>① 各代替地対策工事を含む工事の入札ごとの事業名（発注件名）と落札額がわかる発注資料</p>	5/24(金)	<p>代替地の安全確保は、代替地の造成工事段階から適宜実施するものですが、それに追加して実施した対策工事を含む工事は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッ場ダム本体建設工事 35,919,061,200円 ・ハッ場ダム本体建設二期工事（施工中） 29,077,920,000円 ・H29打越地区擁壁工事 388,800,000円 <p>※ただし、上記金額は、最終変更契約額（施工中の工事は現時点での契約額）であり、対策工事以外の工事を含む</p>
<p>② 各代替地対策工事を含む工事を入札にかけるにあたって作成した入札ごとの費用見積もりの内訳を示した積算資料（代替地対策工事の見積り額が記載された資料）</p>	5/24(金)	上記「1-2 ①」でお示しした工事の設計内訳書を添付します。
1-3 現在の代替地対策工事		
<p>・川原湯地区①、②、③で実施した代替地対策工事の内容がわかる図面（平面図、横断図等）を提供してください。</p>	5/24(金)	川原湯地区①、②、③で実施した対策工事は、上記「1-2 ①」でお示した工事で実施しており、これらの平面図と横断図を添付します。

1-4	川原湯地区①、②、③の鋼管杭・深礎杭工法を不採用とした根拠への疑問		
	・別紙説明スライド10、11の図（出典「H26八ッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務報告書（2017年3月発行）」（以下、「2014報告書」という）に示す通り、粘土含有率と粘着力の関係、締固め度と内部摩擦角の関係がかなりばらついているにもかかわらず、国土交通省が安全側ではない数字、粘着力 c 10 (KN/m ²)、内部摩擦角 ϕ 35° を採用した理由を明らかにしてください。	6/26(水)	各地区で使用した盛土材を用いてJIS規格等に基づく試験を行い、同一の性状を示す全ての試験結果を用いて得られた土質定数 (c 、 ϕ) の数値を採用することとしています。
1-5	川原湯地区①、③で採用したソイルセメント置換盛土工への疑問		
	・吾妻川は中和対策がされているものの、弱酸性であり、また、ダム貯水池周辺に分布する熱水変質層から強酸性地下水が浸出することも考えると、酸性水により、セメント成分が溶け出して、ソイルセメント置換盛土の強度が低下していく危険性があります。16日の国土交通省の説明ではこの問題の認識がなかったようですので、この危険性をどのように認識しているかを明らかにしてください。	6/26(水)	八ッ場ダム貯水池周辺の代替地については、技術的な指針等に基づき必要な安全性を確保することとしております。また、経年的な変化については、八ッ場ダムを運用・管理する中で行う巡視等によって状況を監視し、その状況を踏まえて適切に対応してまいります。
1-6	川原湯地区②で採用した置換コンクリート+プレキャスト擁壁工への疑問		
	・川原湯地区②の採用工法は、置換コンクリート+プレキャスト擁壁工に変わっていますが、置換コンクリート+擁壁背面にある盛土の地震時の地すべりに対する安定度の検討がされていないようです。しかし、16日の説明では安定度の検討をしているとのことでしたので、その安定度の検討結果を示してください。	5/24(金)	川原湯地区②で対策工事として実施した擁壁工について、地震時の安定性を検討した資料を添付します。
1-8	信頼できるデータに基づかない長野原地区③の除外への疑問		
	・別紙説明スライド27（出典「2014報告書」）の図から、盛土の土質パラメータを $c = 2.2\text{KN/m}^2$ 、 $\phi = 37^\circ$ として長野原地区③の安全対策を不要としています。この図に示された4点のデータはバラツキが非常に大きく、相関関係を取るのは無理があります。どうしてこの図に相関関係があるといえるのか、その理由を明らかにしてください。	6/26(水)	相関係数は0.62となっています。
	・また、この図に示された大柏木トンネル発生土等の4点の盛り土材料は、実際に長野原地区③の盛り土に使われたものかどうかを明らかにしてください。	6/26(水)	大柏木トンネル発生土、橋場地区護岸工事、三平地区代替地整備工事、付替国道145号石畑地区その2の盛土材料は、長野原地区③の盛土に使用しています。

2 地すべり対策への疑問点			
	2-1 地すべり対策を大幅に後退させた理由		
	・地すべり対策について、どのような調査をし、どのような結果が出て、誰がどのような理由で、いつ変更の決定をしたのか、経緯がわかる行政文書を提出してください。	5/24(金)	ハッ場ダム貯水池周辺の地すべり（応桑岩層流堆積物などの未固結堆積物を含む）に対しては、技術的な指針等に基づき必要な安全性を確保することとしており、必要に応じて対策工事を実施するとともに、試験湛水により安全性を確認することとしています。 事業進捗の過程で、調査や検討の結果等が明確化していくため、具体的な箇所や工法の変更はあり得ますが、基本的な方針には変わりありません。 「H26ハッ場ダム貯水池周辺地盤性状検討業務」などにより調査を行い、それぞれの箇所の安全性を評価し、ハッ場ダム工事事務所が、上記の基本的な方針に沿って、対策工事の実施に先立ち、実施の要否や工法を決定し、必要に応じて施工しています。
	2-2 現在の地すべり対策の事業費		
	・地すべり対策工事を個別に発注しているわけではないということなので、次の2点の資料を提出してください。	5/24(金)	
	① 各地すべり対策工事を含む工事の入札ごとの事業名（発注件名）と落札額がわかる発注資料	5/24(金)	対策工事を含む工事は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ハッ場ダム本体建設工事 35,919,061,200円 ・ハッ場ダム本体建設二期工事（施工中） 29,077,920,000円 ・H29小倉地区代替地整備工事 195,048,000円 ・H29川原畑地区造成工事 100,224,000円 ・H31ハッ場ダム左岸地区管内整備工事（施工中） 55,080,000円 ※ただし、上記金額は、最終変更契約額（施工中の工事は現時点での契約額）であり、対策工事以外の工事を含まず
	② 各地すべり対策工事を含む工事を入札にかけるにあたって作成した入札ごとの費用見積りの内訳を示した積算資料（地すべり対策工事の見積り額が記載された資料）	5/24(金)	上記「2-2 ①」でお示しした工事のうち、対策工事が完了しているものの設計内訳書を添付します。対策工事中のものは、工事が完了次第提出します。
	2-3 現在の地すべり対策工事		
	・二社平、勝沼、白岩沢、久々戸、横壁で実施した（または実施中の）地すべり対策工事の内容がわかる図面（平面図、横断図等）を提供してください。	5/24(金)	二社平、勝沼、白岩沢、久々戸、横壁で実施した対策工事は、上記「2-2 ①」でお示しした工事で実施しており、これらのうち、対策工事が完了しているものの平面図と横断図を添付します。対策工事中のものは、工事が完了次第提出致します。

	2-5 川原湯(上湯原)等4地区を対策不要とした理由への疑問(2)		
	<p>・国土交通省は、応桑岩屑流堆積物は針貫入試験の結果、軟岩以上の強度を有していると判断していますが、この針貫入試験の結果を地盤工学会基準に当てはめると、すべて軟岩Dランク以下です。国土交通省が軟岩以上の強度を有していると判断する軟岩の定義を明らかにしてください。</p>	6/26(水)	<p>道路橋示方書・同解説の基礎底面地盤の許容鉛直支持力の節に掲載されている岩盤の最大地盤反力度の上限値を用いて軟岩以上としています。なお、地盤工学会基準では軟岩F以上に相当するものと承知していません。</p>
	<p>・応桑岩屑流堆積物は水に漬けると、強度が大きく低下することがあります。私たちは応桑岩屑流堆積物の塊をビーカーに入れて水を加え、攪拌したところ、或る塊は短時間でバラバラになってしまいました。このことを踏まえれば、針貫入試験は応桑岩屑流堆積物を水に漬けた後、実施する必要があります。そのような針貫入試験を実施する考えがないか、もし実施しないのであれば、その理由を明らかにしてください。</p>	6/26(水)	<p>応桑岩屑流堆積物については、JGS基準に基づく針貫入試験を実施していることから、ご指摘の試験を実施する予定はありません。なお、実施した針貫入試験の実施箇所には湿潤状態の箇所も含まれています。</p>